

心身共にたくましく、自ら学ぶ、心豊かな子どもの育成



茅小だより 7月号

令和3年6月30日（水）

茅ヶ崎市立茅ヶ崎小学校
校長 吉野 利彦

「信じて任せる」 ことで育てる

梅雨の晴れ間に、夏の足音が間近に感じられるこの頃ですが、保護者や地域の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。1・2年生や仲よし級では、これから、子どもたちが思い思いの願いごとを書いた七夕の短冊を、笹の葉に飾っていく予定です。

さて、6月5日（土）に行った運動会は、新型コロナウイルスの感染防止対策として、観覧できる人数を制限させていただいたり、種目数を厳選したりして実施いたしました。子どもたちは、当日、学年の力を見事に結集し、心を一つにして、圧巻の演技を見せてくれました。

練習期間は、1ヶ月ほどの長丁場でした。どの学年も、学年全員で創り上げるダンスに力を注いでいました。しかし、練習がスタートした頃は、集中力が続かず、教職員が注意する場面も見受けられました。ダンスの動きをなかなか覚えられず、思い悩む子どもたちも少なくありませんでした。練習は、どの学年も、教職員が思い描くとおりに進んでいかず、教職員の心の中には、「大丈夫だろうか」「このままではまずい」といった不安もよぎりました。

しかし、そうした状況であっても、子どもたちを信じる気持ちは、ゆるぎませんでした。学年の教職員が、深い愛情と情熱をもって接していく中で、子どもたちに任せられる部分は任せることで、子どもたちに変化が現れてきました。困っている友だちを温かく励ます子どもや、家に帰ってからも自主的にダンスの練習を重ねる子どもが増えていったのです。そして、自分たちならもっとできる、自分たちの限界を突破していこうという強い意欲が、一人一人の子どもたちに芽生えていきました。

今年の運動会のスローガンは、『茅小の絆！団結し一生懸命輝こう！古くからある茅小の歴史の一枚に！！』でした。1年生から6年生までの全校児童780名の熱い思いを結集して、ご観覧いただいた方々に最高の感動を届けることができ、茅ヶ崎小学校の歴史に新たに輝く1ページを刻むことができたと思っております。子どもを信じて任せることの大切さを改めて実感いたしました。